

一筆啓上

作左通信



第三十号 平成十八年四月二十九日(土) 発行

家康行列へ参列

前日の荒天がうそのように晴れ渡った四月九日(日)、岡崎市市制施行九十周年記念の「家康行列」が行われました。

この節目となる年、作左の会も本多作左衛門重次を中心とし、総勢二十二名が出陣しました。作左衛門には、初代会長石川保夫さんが扮し、作左の会の参列者は、新調した法被を着て、のぼりを持ち、和やかに伊賀川を出発しま

した。川沿いの桜も満開の中、合図とともに歩き出すと、浴道は人、人、人……。まさに人の波です。この日の人出は、新聞発表では、四十五万人と発表されました。その人波の中、「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」という有名な手紙を紹介しながら、作左の会を、多くの市民へアピールすることができました。沿道からは、作左の会のメンバーに声を

かけていただいたり、手を振っていただいたりして、「西部学区」の活動としても、広く知っていただくことができました。

今年から、作左の会は正式に行列の中に組み入れられ、毎年参列できることになりました。今後、会員で参加したいというご希望の方は、声をかけていただければ、来年度以降の行列への参加をお願いしていきたいと考えています。

今年、西部小が開校して十年目を迎えます。この節目となる年、作左の会では、記念誌の発行にむけての活動も予定しています。

作左の会は、このように西部学区の文化を掘り起こし、市内外へとアピールする活

動をこれからも行っていく予定でいます。「西部の文化をみなさんの力で作り出し、発信していく」その支えとなれるよう、今後も活動していきたいと考えています。今年も作左の会へのご協力・ご支援をよろしく願います。

